

〔伏木^{ふしき}富山港伏木^{ふしき}地区国際物流ターミナル整備事業〕 費用対便益算出資料 〔様式集〕

１）概要表	．．．．．	P 1
２）事業全体	．．．．．	P 2
３）残事業	．．．．．	P 3
便益【維持浚渫からの脱却による効果】	．．．．．	P 4
便益【陸上輸送コスト削減便益】	．．．．．	P 6
便益【海上輸送コスト削減便益】	．．．．．	P 7
便益【緊急物資輸送コスト増大回避】	．．．．．	P 8
便益【震災後の一般貨物輸送コスト増大回避】	．．．．．	P 9
便益【施設被害の回避】	．．．．．	P 10
排出ガスの削減【定量的に把握】	．．．．．	P 11
費用内訳【事業費】	．．．．．	P 12

令和２年９月

北陸地方整備局

費用対効果算出資料

1) 概要表

項目		単価	期間		事業全体 (割引前)	事業全体 (割引後)	残事業 (割引後)	
便益 (B)	維持浚渫からの脱却による効果				972.7億円	2,159.4億円		
		維持浚渫費用削減便益	(最大)8.9億円/年	1998年～2055年	58年	505.5億円	467.5億円	
		土砂処分費用削減便益	71.6億円/年	1990年～1997年	8年	344.1億円	1,562.3億円 ※1	
		既存施設改良費用削減便益	(最大)16.4億円/年	2011年～2025年	15年	123.2億円	129.5億円	
	輸送コストの削減による効果					399.4億円	226.8億円	21.9億円
		陸上輸送コスト削減便益	(最大)9.6億円/年	2006年～2055年	50年	353.2億円	204.9億円	
		海上輸送コスト削減便益	1.5億円/年	2026年～2055年	30年	46.2億円	21.9億円	21.9億円
	震災発生時の効果					22.8億円	12.6億円	
		緊急物資輸送コスト増大回避	0.8億円/回	2021年～2055年	35年	0.3億円	0.2億円 ※2	
		震災後の一般貨物輸送コスト増大回避	20.9億円/回	2021年～2055年	35年	7.0億円	3.8億円 ※2	
		施設被害の回避	43.4億円/回	2021年～2055年	35年	15.5億円	8.6億円 ※2	
		残存価値				46.5億円	12.7億円	
		合計				1,441.4億円	2,411.6億円	21.9億円
費用 (C)	初期投資・更新投資				590.6億円	1,709.2億円	17.4億円	
	管理運営費				10.5億円	8.6億円	0.2億円	
	合計				601.0億円	1,717.8億円	17.6億円	
費用便益分析(B/C)						1.4	1.2	

※1 土砂処分場(埋立地)としての残存価値を考慮

※2 地震発生確率を考慮

費用対効果算出資料

便益

【維持浚渫からの脱却による効果】

- 対象プロジェクトの実施により、毎年多大な費用を要していた維持浚渫からの脱却が可能となる。
また、老朽化が進んでいる既存施設の改良が不要となることで、岸壁供用期間内で維持浚渫費用505.5億円、土砂処分費用344.1億円、既存施設改良費用123.2億円の削減ができる。

<維持浚渫費用削減効果（平成10年度以降）>

	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9		R2	合計	平均
維持浚渫量 (m3/年)	281,210	187,240	145,340	214,300	155,600	157,400	181,500	146,400	146,500	177,800			1,793,290	179,329
事業費 (百万円/年)	1,100	700	600	600	650	650	690	700	700	709			7,099	710
建設デフレーター	83.3	87.3	90.5	93.1	94.3	94.1	95.0	95.3	95.0	95.6		115.1		
事業費(実質) (百万円/年)	1,520	923	763	742	793	795	836	845	848	854			8,919	892

注1: 事業費(実質)とは、令和2年価格とした値、デフレーターは国土交通省資料(2011年度基準価格)より、令和2年度のデフレーターは令和1年度暫定値を代用

注2: H10～H14年度についても維持浚渫は行っていたが、H10に万葉埠頭1・2号の供用が開始し、万葉埠頭の利用を前提としていたことから、

浚渫土量を削減したため、上記の実績には含まれていない

注3: H10～H14年度の便益対象となる維持浚渫量は、上記平均維持浚渫量から実績浚渫量を差し引いた浚渫量で計上

注4: 維持浚渫量は、扱い数量であり、施工はグラブ浚渫、土運船運搬、新湊西埋立地及び東埋立地への土捨て費用

費用対効果算出資料

便益

【維持浚渫からの脱却による効果】

<土砂処分費用削減効果（平成2年度から平成9年度、残存価値を供用最終年に計上）>

廃棄物海面処分場造成費用

$$\begin{aligned}
 &= \text{廃棄物海面処分場造成費用実績(新湊地区)} / \text{土砂受入総量実績(新湊地区)} \times \text{土砂受入総量} \\
 &= 27,457 \text{ (百万円)} / 645 \text{ (万 m}^3\text{)} \times \text{土砂受入総量} \\
 &= 42.57 \text{ (百万円/万 m}^3\text{)} \times \text{浚渫土砂} \times 1.3 \\
 &= 42.57 \text{ (百万円/万 m}^3\text{)} \times 1,034.3 \times 1.3 \\
 &= 57,241 \text{ 百万円}
 \end{aligned}$$

※浚渫土量は、埋め立て時には約1.3倍にふくらむ。(港湾請負工事積算基準)

上記の廃棄物海面処分場造成費用の削減が建設期間約8年間で発生することから、年あたりの効果は、7,155百万円と算定される

$$= 57,241 \text{ 百万円} / 8 \text{ (年)} = \underline{7,155 \text{ 百万円/年}} \text{ (H2~H9 に便益計上)}$$

残存価値として、維持浚渫を継続した場合に発生する土地134haが造成。

処分場面積(事業全体) = 浚渫土量 ÷ 埋め立て高さ

$$= 1,034.3 \text{ (万 m}^3\text{)} \times 1.3 \div 10 \text{ m} = 134 \text{ ha} = \underline{22,835 \text{ 百万円}} \text{ (最終年にマイナスとして計上)}$$

	用地面積	地価(円/㎡)	残存価値 (百万円)	備考
土砂処分場	134 ha	17,041	22,835	土砂処分場が完了する供用終了年(R37)に計上

廃棄物海面処分場造成費用 - 残存価値 = 土砂処分場費用削減効果 とする。

$$57,241 \text{ 百万円} - 22,835 \text{ 百万円} = 34,405 \text{ 百万円} = \underline{344.1 \text{ 億円}}$$

<既存施設改良費用削減効果（平成23年度から令和7年度）>

	水深 (m)	延長 (m)	完成年 (年)	耐用年数 (年)	供用終了年 (年)	改良年	改良単価 (千円/m)	改良費用 (百万円)	改良費用 (百万円/年)
右岸3号	-10	185	1964	50	2013	2014 ~ 2018	12,567	2,325	465.0
右岸4号	-10	185	1967	50	2016	2017 ~ 2021	12,567	2,325	465.0
右岸5号	-7.5	130	1968	50	2017	2018 ~ 2022	9,425	1,225	245.0
左岸2号	-9.5	150	1961	50	2010	2011 ~ 2015	11,938	1,791	358.2
左岸3号	-10	185	1970	50	2019	2020 ~ 2024	12,567	2,325	465.0
左岸4号	-10	185	1971	50	2020	2021 ~ 2025	12,567	2,325	465.0

費用対効果算出資料

便益

【陸上輸送コスト削減便益（平成18年度以降）】

- 対象プロジェクトの実施により、伏木地区が利用可能となることで陸上輸送距離の短縮し、9.6億円/年（2.3億円+7.3億円）の陸上輸送コストが削減できる。

■原塩 WITH時(伏木富山港 伏木地区)

利用港湾	地区	輸送先	品目	貨物量・車両台数			陸上輸送距離・輸送時間			陸上輸送費用		
				①	①'	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
				貨物量 (千トン/年)	1台当り 積載量 (トン/台)	トラック 台数 (台/年) ①/①'	一般道 距離 (km)	一般道 走行速度 (km/h)	陸上 輸送時間 (h) ③/④	1台当り 陸上輸送費 (円)	陸上 輸送費用 (千円/年) ②×⑥	
伏木富山港	伏木	高岡市内	H30以降	原塩	65	20	3,250	13.8	33.3	0.4	22,490	73,093

■木質ペレット WITH時(伏木富山港 伏木地区)

利用港湾	地区	輸送先	品目	貨物量・車両台数			陸上輸送距離・輸送時間			陸上輸送費用		
				①	①'	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
				貨物量 (千トン/年)	1台当り 積載量 (トン/台)	トラック 台数 (台/年) ①/①'	一般道 距離 (km)	一般道 走行速度 (km/h)	陸上 輸送時間 (h) ③/④	1台当り 陸上輸送費 (円)	陸上 輸送費用 (千円/年) ②×⑥	
伏木富山港	伏木	高岡市内	R4以降	木質ペレット	210	20	10,500	0.6	33.3	0.0	22,490	236,145
					計	210		10,500			0.0	

■原塩 WITHOUT時(直江津港 中央埠頭)

利用港湾	地区	輸送先	品目	貨物量・車両台数			陸上輸送距離・輸送時間			陸上輸送費用		
				①	①'	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
				貨物量 (千トン/年)	1台当り 積載量 (トン/台)	トラック 台数 (台/年) ①/①'	一般道 距離 (km)	一般道 走行速度 (km/h)	陸上 輸送時間 (h) ③/④	1台当り 陸上輸送費 (円)	陸上 輸送費用 (千円/年) ②×⑥	
直江津港	中央埠頭	高岡市内	H30以降	原塩	65	20	3,250	280.8	33.3	8.4	92,022	299,072

■木質ペレット WITHOUT時(直江津港 中央埠頭)

利用港湾	地区	輸送先	品目	貨物量・車両台数			陸上輸送距離・輸送時間			陸上輸送費用		
				①	①'	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
				貨物量 (千トン/年)	1台当り 積載量 (トン/台)	トラック 台数 (台/年) ①/①'	一般道 距離 (km)	一般道 走行速度 (km/h)	陸上 輸送時間 (h) ③/④	1台当り 陸上輸送費 (円)	陸上 輸送費用 (千円/年) ②×⑥	
直江津		高岡市内	R4以降	木質ペレット	210	20	10,500	284.0	33.3	8.5	92,022	966,231
					計	210		10,500			8.5	

陸上輸送費用削減便益(年間)			
便益項目	陸上輸送便益		
WITHOUT-WITH (削減便益)	H30以降	225,979 (千円/年)	2.26 (億円/年)

陸上輸送費用削減便益(年間)			
便益項目	陸上輸送便益		
WITHOUT-WITH (削減便益)	R4以降	730,086 (千円/年)	7.30 (億円/年)

費用対効果算出資料

便益

【海上輸送コスト削減便益（令和8年度以降）】

- 対象プロジェクトの実施により、より大型の船舶での輸送が可能となり運行回数が減少することで、1.5億円/年の海上輸送コストが削減できる。

■WITH時(伏木富山港:水深14m)

搬入先	品目	区分	貨物量・利用船型・入港隻数				海上輸送先・距離・輸送時間						海上輸送費用		
			① 貨物量 (千トン)	② 対象船型 (DW級)	③ 1隻当り 積載量 (トン/隻)	④ 入港船舶 隻数 (隻) ①/③	⑤ 利用港	⑥ 相手港	⑦ 海上 距離 (マイル)	⑧ 往復海上 距離 (マイル) ⑦×2	⑨ 平均速度 (マイル/h)	⑩ 海上輸送 時間 (h) ⑧/⑨	⑪ 海上輸送 日数 (日) ⑩/24h	⑫ 海上輸送 費用算定 原単位 (千円/日・隻)	⑬ 海上輸送 費用 (千円/年) ⑩=④×⑪×⑫
高岡市	木質 ペレット	輸入	210	50,000	32,500	7	伏木 富山港	アメリカ (コースペイ)	4,337	8,674	16.0	542.1	22.6	3,452	546,106
		計	210			7									546,106

■WITHOUT時(伏木富山港:水深12m暫定供用)

搬入先	品目	区分	貨物量・利用船型・入港隻数				海上輸送先・距離・輸送時間						海上輸送費用		
			① 貨物量 (千トン)	② 対象船型 (DW級)	③ 1隻当り 積載量 (トン/隻)	④ 入港船舶 隻数 (隻) ①/③	⑤ 利用港	⑥ 相手港	⑦ 海上 距離 (マイル)	⑧ 往復海上 距離 (マイル) ⑦×2	⑨ 平均速度 (マイル/h)	⑩ 海上輸送 時間 (h) ⑧/⑨	⑪ 海上輸送 日数 (日) ⑩/24h	⑫ 海上輸送 費用算定 原単位 (千円/日・隻)	⑬ 海上輸送 費用 (千円/年) ⑩=④×⑪×⑫
高岡市	木質 ペレット	輸入	210	30,000	19,500	11	伏木 富山港	アメリカ (コースペイ)	4,337	8,674	16.0	542.1	22.6	2,815	699,809
		計	210			11									699,809

※対象船舶50,000DWT(WITH時)、30,000DWT(WITHOUT時) 1隻当り積載量:H30年新潟地区木材チップ船満載時の実績積載量

輸送コスト削減便益	海上輸送コスト (千円/年)
WITH	546,106
WITHOUT	699,809
便益(WITHOUT-WITH)	153,703

費用対効果算出資料

便益

【緊急物資輸送コスト増大回避（令和3年度以降）】

- 対象プロジェクトの実施により、緊急物資や一般貨物（緊急物資を除く）を海上輸送で直接被災地域へと搬入・搬出することが可能となり、0.8億円/回（地震発生確率考慮前）の緊急物資輸送コストが削減される。

算定条件及び緊急物資輸送コスト削減便益			備考
①	背後圏人口(人)	204,228	平成30年10月現在
②	緊急物資量《被災直後から2日間》水・毛布(MT)	42.9	
③	3tヘリコプター1台当りの輸送回数(回)	15	②/3t:ヘリコプターを想定
④	3tヘリコプター1台当りの輸送コスト(千円/回)	2,658.5	(解説書 p 2-13-28) R1価格に補正
⑤	輸送コスト《被災直後から2日間》(千円)	39,877	③×④
⑥	緊急物資量《被災3日目から1ヶ月後》雑工業品(MT)	2,980.1	背後圏人口より算出
⑥'	緊急物資量《被災3日目から1ヶ月後》雑工業品(FT)	3,242.8	フレートン(FT)とメトックン(MT)の換算係数: MT/FT=0.919(解説書 p 2-2-16:フェリ-貨物以外)
⑦	緊急物資量《被災3日目から1ヶ月後》農水産品(MT)	686.2	背後圏人口より算出
⑦'	緊急物資量《被災3日目から1ヶ月後》農水産品(FT)	746.7	フレートン(FT)とメトックン(MT)の換算係数: MT/FT=0.919(解説書 p 2-2-16:フェリ-貨物以外)
⑧	使用トラックの輸送台数(台)	1,330	(⑥'+⑦')/3:3FT/台(解説書p2-13-28)
⑨	トラックの輸送コスト(円/台)	20,368	代替港:七尾港(片道43.4km:往復86.8km) 伏木富山港伏木地区万葉埠頭からの輸送距離
⑩	輸送コスト《被災3日目から1ヶ月後》(千円)	27,089	⑧×⑨
⑪	輸送時間(時間):ヘリコプター	1.0	
⑫	輸送時間(時間):トラック	6.4	代替港:七尾港 20km圏の道路:30.1km(走行速度5km/h) それ以外の道路:13.3km(走行速度34.3km/h)
⑬	雑工業品(衣料等)の時間価値(円/フレートン・時)	617	雑工業品(解説書 p 2-13-28) R1年価格に補正
⑭	農水産品(食品等)の時間価値(円/フレートン・時)	123	農水産品(解説書 p 2-13-28) R1年価格に補正
⑮	時間費用《被災直後から2日間》(千円)	26	②×⑪×⑬
⑯	時間費用《被災3日目から1ヶ月後》(千円)	13,393	⑥'×⑫×⑬+⑦'×⑫×⑭
緊急物資輸送コスト削減便益(千円)		80,385	⑤+⑩+⑮+⑯
緊急物資輸送コスト削減便益(億円)		0.8	

費用対効果算出資料

便益

【震災後の一般貨物輸送コスト増大回避（令和3年度以降）】

- 対象プロジェクトの実施により、震災後において背後企業の一般貨物の取扱いが可能となり、20.9億円/回（地震発生確率考慮前、11.1億円+9.8億円）の震災後の一般貨物輸送コストが削減される。

■既存貨物(木質パレット以外) WITH時

品目	出入	発着地	利用港湾	地区	貨物量・車輛台数			陸上輸送距離・輸送時間			陸上輸送費用	
					①	①'	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					貨物量 (千トン/年)	1台当り積載量 (トン/台)	トラック台数 (台/年)	一般道距離 (km)	一般道走行速度 (km/h)	陸上輸送時間 (h)	1台当り陸上輸送費 (円)	陸上輸送費用 (千円/年)
3号	石炭	輸入	高岡	伏木地区	13	20	650	7.6	33.3	0.2	22,490	14,619
					7	20	350	13.8	33.3	0.4	22,490	7,872
					65	20	3,250	14.2	33.3	0.4	22,490	73,093
	原産	移入	高岡	伏木地区	31	20	1,550	14.2	33.3	0.4	22,490	34,860
					2	20	100	34.2	33.3	1.0	25,226	2,523
					6	20	300	13.8	33.3	0.4	22,490	6,747
	鉄鋼	輸入	高岡	伏木地区	10	20	500	13.8	33.3	0.4	22,490	11,245
					1	20	50	13.8	33.3	0.4	22,490	1,125
					4	20	200	13.8	33.3	0.4	22,490	4,498
	非鉄金属	輸出	高岡	伏木地区	1	20	50	13.8	33.3	0.4	22,490	1,125
					5	20	250	13.8	33.3	0.4	22,490	5,623
					4	20	200	13.8	33.3	0.4	22,490	4,498
	紙・パルプ	移入	高岡	伏木地区	8	20	400	7.6	33.3	0.2	22,490	8,996
					5	20	250	7.6	33.3	0.2	22,490	5,623
					58	20	2,900	13.8	33.3	0.4	22,490	65,221
2号	完成自動車	移入	高岡	伏木地区	300	20	15,000	13.8	33.3	0.4	22,490	337,350
					3	20	150	13.8	33.3	0.4	22,490	3,374
					17	20	850	13.8	33.3	0.4	22,490	18,117
3号	砂利・砂	移入	高岡	伏木地区	10	20	500	13.8	33.3	0.4	22,490	11,245
					10	20	500	13.8	33.3	0.4	22,490	11,245
計					550		27,500			114	618,754	

※貨物により発着地が異なる場合は、発着地を高岡市役所に設定

■既存貨物(木質パレット以外) WITHOUT時

品目	出入	発着地	利用港湾	地区	貨物量・車輛台数			陸上輸送距離・輸送時間			陸上輸送費用	
					①	①'	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					貨物量 (千トン/年)	1台当り積載量 (トン/台)	トラック台数 (台/年)	一般道距離 (km)	一般道走行速度 (km/h)	陸上輸送時間 (h)	1台当り陸上輸送費 (円)	陸上輸送費用 (千円/年)
3号	石炭	輸入	高岡	大田	13	20	650	91.2	33.3	2.7	43,240	28,106
					7	20	350	90.0	33.3	2.7	43,240	15,134
					65	20	3,250	281.6	33.3	8.5	87,667	284,918
	原産	移入	高岡	大田	31	20	1,550	87.8	33.3	2.6	40,153	62,237
					2	20	100	113.2	33.3	3.4	48,652	4,865
					6	20	300	90.0	33.3	2.7	43,240	12,972
	鉄鋼	輸入	高岡	大田	10	20	500	90.0	33.3	2.7	43,240	21,620
					1	20	50	90.0	33.3	2.7	43,240	2,162
					4	20	200	90.0	33.3	2.7	43,240	8,648
	非鉄金属	輸出	高岡	大田	1	20	50	90.0	33.3	2.7	43,240	2,162
					5	20	250	90.0	33.3	2.7	43,240	10,810
					4	20	200	90.0	33.3	2.7	43,240	8,648
	紙・パルプ	移入	高岡	大田	8	20	400	91.2	33.3	2.7	43,240	17,296
					5	20	250	90.0	33.3	2.7	43,240	10,810
					58	20	2,900	90.0	33.3	2.7	43,240	125,390
2号	完成自動車	移入	高岡	大田	300	20	15,000	90.0	33.3	2.7	43,240	648,600
					3	20	150	90.0	33.3	2.7	43,240	6,486
					17	20	850	90.0	33.3	2.7	43,240	36,754
3号	砂利・砂	移入	高岡	大田	10	20	500	90.0	33.3	2.7	43,240	21,620
					10	20	500	90.0	33.3	2.7	43,240	21,620
計					550		27,500			114	1,329,244	

陸上輸送費用削減便益(年間)	
WITHOUT-WITH (削減便益)	710,490 (千円/年)
	7.10 (億円/年)

■木質パレット WITH時

品目	出入	発着地	利用港湾	地区	貨物量・車輛台数			陸上輸送距離・輸送時間			陸上輸送費用		
					①	①'	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
					貨物量 (千トン/年)	1台当り積載量 (トン/台)	トラック台数 (台/年)	一般道距離 (km)	一般道走行速度 (km/h)	陸上輸送時間 (h)	1台当り陸上輸送費 (円)	陸上輸送費用 (千円/年)	
3号	木材パレット	輸入	高岡	伏木富山港	伏木地区	210	20	10,500	0.6	33.3	0.0	22,490	236,145
計					210		10,500			0.0		236,145	

■木質パレット WITHOUT時

品目	出入	発着地	利用港湾	地区	貨物量・車輛台数			陸上輸送距離・輸送時間			陸上輸送費用		
					①	①'	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
					貨物量 (千トン/年)	1台当り積載量 (トン/台)	トラック台数 (台/年)	一般道距離 (km)	一般道走行速度 (km/h)	陸上輸送時間 (h)	1台当り陸上輸送費 (円)	陸上輸送費用 (千円/年)	
3号	木材パレット	輸入	高岡	敦賀	鞠山南埠頭	210	20	10,500	366.0	33.3	11.0	109,442	1,149,141
計					210		10,500			11.0		1,149,141	

陸上輸送費用削減便益(年間)	
WITHOUT-WITH (削減便益)	912,996 (千円/年)
	9.13 (億円/年)

既存貨物

レベル2地震動の再現期間 3000年

震災時における一般貨物輸送便益 7.10 億円/年

通常時における輸送コスト削減便益 2.26 億円/年

11.1 億円/回

新規貨物

レベル2地震動の再現期間 3000年

震災時における一般貨物輸送便益 9.13 億円/年

通常時における輸送コスト削減便益 7.30 億円/年

9.8 億円/回

費用対効果算出資料

便益

【施設被害の回避（令和3年度以降）】

- 対象プロジェクトの実施により、震災時においても当該ターミナルの被災を回避でき、43.4億円/回（地震発生確率考慮前）の復旧に掛かるコストが削減される。

施設被害回避額			
・岸壁(水深14m)の整備総費用	55.47	億円	
・岸壁(水深14m) 事業費	43.41	億円	
・岸壁(水深14m) 耐震改良	12.07	億円	
・復旧費用	整備総費用－耐震化費用		
	55.47	- 12.07	= 43.41 億円

費用対効果算出資料

排出ガスの削減（令和8年度以降）【定量的に把握】

●対象プロジェクトの実施により、陸上輸送距離、海上輸送回数の短縮が図られ、CO2排出量は約1,339t-C/年、NOX排出量は約50t/年の削減が可能となる。

陸上輸送距離短縮による排出ガスの削減（原塩・木質ペレット）

■WITH時(伏木富山港 伏木地区)

利用港湾	地区	輸送先	品目	貨物量・車輛台数			陸上輸送距離・輸送時間			CO2排出量			Nox排出量			
				①	①'	②	③	④	⑤	⑥		⑦		⑧		
				貨物量 (千トン/年)	1台当り 積載量 (トン/台)	トラック 台数 (台/年) ①/①'	一般道 距離 (km)	一般道 走行速度 (km/h)	陸上 輸送時間 (h) ③/④	CO2排出原単位		CO2 排出量 (t-C/年) ②×③×⑥	NOx排出原単位		NOx 排出量 (t/年) ②×③×⑧	
伏木富山港	伏木	高岡市内	R8	原塩	65	20	3,250	13.8	33.3	0.4	145.20	132.68	6.5	2.78	2.16	0.12
				木質ペレット	210	20	10,500	0.6	33.3	0.0	145.20	132.68	0.9	2.78	2.16	0.02
				計	275		13,750			0.4			7.4			

■WITHOUT時(直江津港 中央埠頭)

利用港湾	地区	輸送先	品目	貨物量・車輛台数			陸上輸送距離・輸送時間			CO2排出量			Nox排出量			
				①	①'	②	③	④	⑤	⑥		⑦		⑧		
				貨物量 (千トン/年)	1台当り 積載量 (トン/台)	トラック 台数 (台/年) ①/①'	一般道 距離 (km)	一般道 走行速度 (km/h)	陸上 輸送時間 (h) ③/④	CO2排出原単位		CO2 排出量 (t-C/年) ②×③×⑥	NOx排出原単位		NOx 排出量 (t/年) ②×③×⑧	
直江津港	中央埠頭	高岡市内	R8	原塩	65	20	3,250	280.8	33.3	8.4	145.20	132.68	132.5	2.78	2.16	2.54
				木質ペレット	210	20	10,500	284.0	33.3	8.5	145.20	132.68	433.0	2.78	2.16	8.29
				計	275		13,750			17			565.5			

CO2・Nox削減量		CO2削減量 (t-C/年)	Nox削減量 (t/年)
WITHOUT-WITH	R8	558.1	10.69

海上輸送回数削減による排出ガスの削減（木質ペレット）

■WITH時(伏木富山港:水深14m)

利用船型・入港隻数		輸送時間		CO2削減量		Nox削減量	
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
対象船型 (DW級)	相手港	入港船舶 隻数 (隻)	海上輸送 時間 (h)	CO2海上輸送 排出量原単位 (トン-C/隻・時)	CO2 排出量 (トン-C) ②×③×④	Nox海上輸送 排出量原単位 (トン/隻・時)	NOX 排出量 (トン-C) ②×③×⑥
50,000DWT	アメリカ	7	542.1	1.35	5,123	0.128	486
					5,123		486

■WITHOUT時(伏木富山港:水深12m暫定供用)

利用船型・入港隻数		滞船時間		CO2削減量		Nox削減量	
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
対象船型 (DW級)	相手港	入港船舶 隻数 (隻)	海上輸送 時間 (h)	CO2海上輸送 排出量原単位 (トン-C/隻・時)	CO2 排出量 (トン-C) ②×③×④	Nox海上輸送 排出量原単位 (トン/隻・時)	NOX 排出量 (トン-C) ②×③×⑥
30,000DWT	アメリカ	11	542.1	0.99	5,904	0.088	525
					5,904		525

CO2排出量・Nox排出量	CO2 排出量 (t-C/年)	NOX 排出量 (t/年)
削減便益	781	39

参考資料

費用内訳

【事業費】

単位: 億円 (税込み)

施設名称	事業期間	計画数量	全体事業費		既設投資額	残事業費	進捗率 (%)
			前回	今回			
防波堤(北)	S63~H24	1,650m	279	279	279	0	100%
岸壁(水深10m)	H4~H28	190m	31	31	31	0	100%
岸壁(水深7.5m)	H3~H7	130m	19	19	19	0	100%
泊地(水深10m)	H5~H7	2.6ha	5	5	5	0	100%
航路(水深10m)	H5~H7		7	7	7	0	100%
岸壁(水深14m)	H12~H17	280m	46	46	46	0	100%
岸壁(水深14m)(耐震)(改良)	H25~H28	280m	13	13	13	0	100%
泊地(水深14m)	H12~R7	40.9ha	55	55	42	13	76%
航路(水深14m)	R5~R5	0.6ha	1	1	0	1	0%
防波堤(東)	H3~H6	150m	9	9	9	0	100%
道路(外港1号)	H4~H9	298m	7	7	7	0	100%
道路(外港2号)	H6~H10	304m	2	2	2	0	100%
道路(外港1号)(改良①)	H8~H25	1,920m	43	43	43	0	100%
道路(外港1号)(改良②)	H26~R7	1,000m	8	8	4	4	42%
道路(外港1号)(橋梁)	H8~H21	610m	40	40	40	0	100%
ふ頭用地	H1~R4		49	52	49	3	94%
合計	S63~R7		613	616	594	22	96%

※既投資額、残事業費、進捗率は令和2年度末予定

【管理運営費】

岸壁の管理運営費

万葉ふ頭の維持補修費 平成21年度実績

工事名	工期	契約額(円)	工事概要	備考
伏木富山港(伏木地区)統合補助万葉ふ頭2号岸壁舗装補修工事	平成21年8月11日~平成21年11月6日	8,223,600	L=61.6m 舗装補修 A=412.7m ²	供用開始から10年経過で補修
伏木富山港(伏木地区)統合補助万葉ふ頭2号岸壁舗装補修その2工事	平成21年12月25日~平成22年3月15日	12,984,300	L=110.2m 舗装補修 A=738.3m ²	
計		21,207,900		

$$21,000,000 \text{円} \div 10 \text{年} = \mathbf{2,100,000 \text{円/年}} \text{ ①}$$

付帯施設補修費(草止め) 平成22年度実績より

施設名	延長(m)	金額	備考	円/㎡・年
富山地区7号岸壁(-7.5m)草止め取替	10	458,000	15年毎に補修	3,053

3,000

$$\text{万葉岸壁1, 2, 3号} \quad 600\text{m} \quad \times \quad 3,000 \text{円} = \mathbf{1,800,000 \text{円/年}} \text{ ②}$$

付帯施設補修費(防眩材) 平成23年度実績より

施設名	数量(基)	金額	備考	円/基・年
富山地区8号岸壁(-10m)防眩材取替	4	7,846,000	20年毎に補修	98,075

98,000

$$\text{万葉岸壁1, 2, 3号} \quad 48 \text{基} \quad \times \quad 98,000 \text{円} = \mathbf{4,704,000 \text{円/年}} \text{ ③}$$

臨港道路の管理運営費

万葉大橋の維持管理費(電気代/年間)

万葉大橋照明(左岸側)	140,892	延長610mで年間の電気代
万葉大橋照明(右岸側)	91,207	
航路標識	11,599	
万葉大橋消雪(左岸側)	189,813	
万葉大橋消雪(右岸側)	196,588	
計	630,099	

$$\mathbf{630,000 \text{円/年}} \text{ ④}$$

付帯施設補修費 社会資本総合整備計画より

施設名	延長(m)	金額	備考	円/㎡・年
伏木港大橋 橋梁塗装	240	50,000,000	20年毎に補修	10,417

10,000

$$\text{万葉大橋} \quad 610\text{m} \quad \times \quad 10,000 \text{円} = \mathbf{6,100,000 \text{円/年}} \text{ ⑤}$$

臨港道路舗装補修費 社会資本総合整備計画より

施設名	延長(m)	金額	備考	円/㎡・年
臨港道路1号線	3,137	78,000,000	15年毎に補修	1,658

1,600

$$\text{臨港道路延長} \quad 4132\text{m} \quad \times \quad 1600 \text{円} = \mathbf{6,611,200 \text{円/年}} \text{ ⑥}$$

$$\text{①} + \text{②} + \text{③} + \text{④} + \text{⑤} + \text{⑥} = \mathbf{21,945,200 \text{円/年}}$$

【抜替】 $\mathbf{20,900,190 \text{円/年}}$

※岸壁の維持補修(付帯施設含む)、橋梁の照明等の電気代、塗装補修、及び臨港道路の舗装補修を計上。